



ぶらんこ

令和4年12月6日(火)
おおむたこども園 NO19
山元 紀代美

遊びと学びの発表会のお礼。

3日(土)の「遊びと学びの発表会」にご参加いただき本当にありがとうございました。子どもたちは、日頃の保育の成果を楽しく発表することができたのではないだろうかと思います。大勢のお客様に驚いて、動きが止まってしまった子どももいましたが、自分が決めた事に自信をもって発表できたように思います。時には悩んで「これにしようか?あれにしようか?」と、たくさん担任と話し合っ、自分で決めました。担任も子どもの意思を尊重しながら、流れを組んでいくのにたくさん考えたようでした。「子どもが主体の保育」に移行すると同時に行事の見直しをせずいぶん経ちますが、すぐに以前行っていた大人主導の「見せる行事」にかえてしまいそうになる時があります。

今の保育形態になる前は、1か月・・・いやそれより前から練習を始めていました。秋の運動会が終わり、ゆっくりする暇もなく発表会の練習!が当たり前でした。この時期になると思い出すのが「スズメの学校」という童謡です。

♪チイチイパッパ チイパッパ すずめの学校の先生は ムチをふりふり チイパッパ
生徒のすずめは輪になって、お口をそろえて チイパッパ
まだまだいけない チイパッパ
もう一度 一緒に チイパッパ ♪

行事に力を入れ、「見せる保育」に一生懸命取り組んでいたころの思い出です。発表会前になると各クラスの「舞台取り争奪戦」が始まるものでした。少しでも舞台上がって練習がしたい保育士。子どもたちは毎日、毎日練習で疲れ切っています。もちろん保育士も・・・おやつを食べてからがやっと外に出て遊べるといった毎日でした。

発表会が終わればみんな「やっと終わった・・・」って感じです。もちろんたくさん練習してきたので、うまくできれば、達成感もありました。しかしこれは大人の自己満足です。それに子どもたちは振り回されて、何度も何度も同じこと(練習)を繰り返す毎日。保護者が迎えに来る頃には「まだ遊んでない!帰らない!」と駄々をこねる姿もありました。

今朝、「たのしかったね!また、発表したいね!」と話す子どもたちを見ながら、発表会が苦痛でなく、楽しい思い出に変わり満足そうでした。昔担任させてもらった子どもたちを思い出し、「どれほどの無理をさせてきたのだろう」と自身の保育士人生を振り返り、申し訳ない気持ちになります。今は日々の保育が充実しているので、その頃に比べると高度な遊びができるようになっている子どもたちです。同じ事を発表せずとも、自分が自信を持っていることを発表できることは、自己肯定感にも繋がりますし、何がやりたいのか?子どもたち自身もはっきりわかり、達成感を味わうことができます。

クラスごとの発表が終わるたび、保護者の方々が見えて、目を潤ませながらお礼をたくさんいただきました。堂々と発表する我が子に感動し、その成長を心から喜ばれ、話をしているこちらでも感無量になり目頭が熱くなりました。今、本当に保育を変えてよかったなあとしみじみ思います。

静岡県の〇〇保育園で起きた保育士による1歳児への虐待事件のニュースが大々的に報道されています。そのニュースを見るたびに、心の底から震えるような思いがします。私自身、1歳児の部屋に昼食時に手伝いに入ることもあるのですが「こんなに小さい子たちを宙づりにしたり、叩いたり・・・。子どもたちは怖くてたくさん泣いただろう」と思うと、同じ保育士として憤りを感じてしまいます。このニュースが報道された直後、職員会議を行い、虐待についてみんなで話し合いました。こういった虐待のニュースが出ると当事者は「しつけのつもりだった・・・」と必ず言います。こんな言葉を言うような間違った認識を持たないように、子どもはどんな環境の中で育たなければならないのか、再度児童憲章を読み返すことでした。